

特集 新型コロナウイルス感染症予防のための活動の自粛期間と再開期におけるトップアスリートへの影響
——日本オリンピック委員会 (JOC) によるアンケート調査とハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC) での事例

新型コロナウイルス感染症拡大によるトップアスリートへの影響

石毛勇介¹⁾
Yusuke Ishige¹⁾

はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、社会の隅々にまでおよび、我々の日常生活にもさまざまな形でその影を落としている。緊急事態宣言の発令はもとより、外出時には常にマスクを着用することがもはや常識となっている。こうした影響は、もちろんトップアスリートにも及んでおり、2020 東京大会の延期は、その最たるものであろう。

海外では、トップアスリートに対する新型コロナウイルス感染症拡大の影響について、国際オリンピック委員会 (IOC)、各国オリンピック委員会 (NOC) などを中心に、調査報告がなされている。我が国においては、日本オリンピック委員会 (JOC) 情報・科学サポート部門が音頭を取り、日本の選手を対象としたアンケート調査を 2020 年 8 月に実施している。我が国トップアスリートが直面している問題点を明らかにし、その解決策を考えていくことは、我が国の国際競技力向上の観点から必須の事項であり、今更議論する余地もないが、一方で、こうした検討を進めていくことは、その解決策の中に広く社会一般にも応用可能なヒントが潜んでいると考えることもできる。

国立スポーツ科学センター (JISS) は 2001 年

に開所した、我が国のトップアスリートをサポートする中核拠点である。2008 年のナショナルトレーニングセンター・ウエスト (NTC・ウエスト) の開設を経て、2016 年 4 月より国は、JISS、NTC・ウエスト一体を含む西が丘地域をハイパフォーマンスセンター (HPSC) と位置づけ、さらに 2019 年に開設されたナショナルトレーニングセンター・イースト (NTC・イースト) を加え現在に至っている。JISS の使命は国際競技力の向上に資する支援・研究・診療を行うことであり、昨今の状況において、トップアスリートにおける感染症対策についても、より大きな貢献を果たすことが期待されている。また、そうした感染症対策において何よりも重要視されているのは、スピード感であり、様々な問題に対してスピード感を持って対応することを職員一同心掛けている。昨年の緊急事態宣言発令中も情報発信のプラットフォームとしてホームページ上に「NEW STYLE with HPSC」を立ち上げるなど、様々な形での取り組みを行ってきた¹⁾。競技団体を統括する JOC とも密に連携を図りながら、JOC との役割分担を明確にした上で事業を進めてきたつもりである。JOC はより競技団体に近い立場で、一方 JISS は HPSC を中心とした選手のトレーニングの現場に

¹⁾ 国立スポーツ科学センター

¹⁾ Japan Institute of Sports Sciences

E-mail : yusuke.ishige@jpnssport.go.jp

おける活動をもとに事業を進めている。

本特集では、昨今の状況を踏まえ、トップアスリートを対象として実施された JOC 情報・科学サポート部門によるアンケート調査の結果、並びに HPSC におけるトップアスリートのトレーニング指導再開に向けた取組みを具体的事例とともに紹介する。JOC のアンケート調査、並びに JISS の支援活動において、選手・コーチの心の問題が以前にも増して大きくなってきていることが明らかとなった。今後、新たな生活様式を踏まえ、取り巻く環境が以前とは大きく異なることに疑いの余地はなく、トップアスリートの心のあり方も変化していくことが予想される。メンタル面でのサ

ポートの重要性はますます大きくなっていくであろう。一方で、我々はスポーツの力を信じており、スポーツが及ぼすプラスの影響に目を向け、困難な時代をよりよく生きていくために、最善の努力をし、トップアスリートに対する支援をより発展させることを目指している。本特集が少しでも多くの方々の参考となることを期待したい。

文献

- 1) 久木留毅. COVID-19 に関するハイパフォーマンススポーツセンターの動向—国立スポーツ科学センターを中心とした取組— (早期公開版). 日本スポーツ栄養研究誌, 2020.